

第14期 環境市民会議（第2回）議事要録

開催日時 令和8年8月24日（月） 18時00分～19時40分

場所 武蔵野市役所111会議室

出席者 鈴木委員長、財城副委員長、古後委員、澤田委員、西村委員、佐々木委員、新保委員、関口委員

- 内容
- 1 副委員長の選出
 - 2 年次報告（令和7年度版 武蔵野市の環境保全）について

1 副委員長の選出

前副委員長の辞職に伴い互選を行った結果、財城委員が選出された。

2 年次報告（令和7年度版 武蔵野市の環境保全）について

発言者	発言要旨
委員長	年次報告は統計資料として重要だが、若干ルーティンワークになっているようにも見受けられる。次期環境基本計画の見直しのためにも、年次報告の結果からは課題を探す必要がある。環境方針に基づく環境保全の施策は多岐にわたっており、市役所の中でも様々な部署において実施されているが、取組みが不足している部分や目標達成に向けた支障などの課題について、事務局としてどのように認識しているか。
事務局	令和7年度は、環境基本計画の中間評価を実施し、市役所の関連する部署において、施策の進捗状況を踏まえ、目標の達成に向けた課題を抽出し、計画後期の施策を効果的かつ着実に推進するための「重点ポイント」を整理したところ。計画後期は、この「重点ポイント」により一層注力していかなければならないと認識している。
委員長	武蔵野市は、土砂災害・高潮・津波の警戒区域がなく、河川の氾濫による浸水のリスクも少ない。自然災害が頻発する昨今、自然災害の発生により環境基本計画が頓挫する確率が少ないのは、武蔵野市の良いところだと思う。 一口に「環境保全」と言っても、受け止め方は人によって様々だと思うが、環境保全に対する疑問や課題、意見などについて、出席委員の発言をいただきたい。
A委員	武蔵野市に住んでおり、自然災害に強い地域だと感じている。一方で、毎年、全国のどこかで自然災害が発生し、被災地では人も動物も辛い思いをしていると伺っている。いつか武蔵野市にも自然災害が発生する日が来るのではないかと考えているが、年次報告ではペットの災害対策に係る記載が少ない。一緒に暮らすペットをどのように守っていくかについて、情報発信や相談窓口が少ないという課題があると思う。現状、猫に関することは「むさしの地域猫の会」ですべて引き受けているが、流石に厳しくなってきた。市役所に相談窓口があり、いつでも相談できる仕組みが全国的に必要なと思っている。
B委員	事業者として、「事業者によるCO ₂ 排出量削減」が気になる。CO ₂ については、家庭部門からの排出量は減っているが、コロナ禍が明け、家庭以外からの排出量が増えている。市民の意識は高いが、事業者による排出量削減をどのように進めていくべきか。市の手続きには電子申請が増え、紙申請が減っていることは承知しているが、今後の市としての取組みを教えて欲しい。
C委員	年次報告の91ページ、廃プラ焼却量が増加しているが、由来は家庭部門か事業者か、その要因も含めて教えて欲しい。また、対策として、市民にマイボトルの使用を推進したり、PRのキャンペーンを展開するなどの施策が考えられるのではないかと。また、CO ₂ の排出量の抑制について、今後の展望を伺いたい。

事務局	廃プラ焼却量が増加した要因について、所管部門に確認したところ「かなり複合的である。」とのことだったが、家庭のごみの排出量が減少していることから、事業者由来である可能性が高いと推察している。市ではごみ市民会議を設置し、その中で廃プラの資源循環について議論されている。今後、データを更に分析し、ごみ市民会議における議論を踏まえて対策を検討する。 また、CO₂の排出量については、家庭部門が減少している一方で、業務部門が増加している。現在、事業者を対象とした市の施策は啓発に留まっており、業務用設備への補助制度等はない。今後、市としてどのようなアプローチができるか検討しているところ。
委員長	CO₂の排出量の抑制について、市単独でできることは限られていると思う。都の環境審議会では、「家庭における発電」や「住宅メーカーへの太陽光発電の義務化」などについて議論している。都の蓄電池設置への支援制度は手厚いが、あまり知られていないという課題があり、市に「都の政策を市民に伝える。」という機能があっても良いと思う。東京オリンピックの時話題になったレアメタル・貴金属を回収する「都市鉱山」や、天ぷら油等を回収して飛行機を飛ばす「都市油田」も認知度が上がっていない。市民は都民でもあるので、市は市民にアナウンスして欲しい。
D 委員	年次報告の中で「CO₂が削減された」とあるが、市の施策の関与が明文化されていないと感じた。すべてのものについて市が住民に対し啓蒙活動をしていると思うので、コミュニケーションを図ったものについては、その旨を記載した方が良いのではないかな。
委員長	施策が定量的に、どのように結果に関係したかを分析することは難しい。削減は、様々な施策を総合的に講じた結果であり、すべて書くこともできないと思う。なお、CO₂の排出量については、二酸化炭素排出係数が年々下がっており、今後も下がっていくと見込まれている。
事務局	成果指標におけるCO₂の排出量が減少した最も大きな要因は二酸化炭素排出係数によるものだと思うが、「市の公共施設の再生可能エネルギー源由来の電気への切替」は直接的な削減の要因となった。また、むさしのエコreゾートにおいて様々な環境啓発を行ったことも、市民の皆様の努力によるCO₂の排出量削減に繋がったものと認識している。市の施策とモニタリング指標が1対1の関係にないため、分かり辛さがあると思う。
E 委員	私は、市の環境保全に係る施策を高く評価している。年次報告の19ページにあるように、市は雨水の流出抑制について、流出係数の目標値を定め、その達成に向けて大変な努力をしている。都も地下に大規模な貯水池を作っている。一昨日、大雨が降ったが、「まず大丈夫だろう。心配ない。」と思った。また、ごみの排出量削減には、ごみ袋の有料化が効果的だった。「ごみを減らそう。」や「ごみを分別しよう。」という市民の行動変容に繋がったと見ている。このように、「市民にとって分かりやすい施策」は「効果が出る」と思っており、如何に分かりやすい施策を実施するかが重要である。
F 委員	事務局の立場から申し上げる。 市の環境保全について、年次報告ではできるだけ定量的なものを成果指標としている。また、定性的なものについては個別計画で定めており、そちらで評価している。このように、市としては成果をまとめているが、それを「発信する。」というところが市の苦手な分野。市民の皆様の行動変容に繋がられるよう、力を入れていかなければならない。 ペットの災害対策については、関連する計画を見直す際、何が課題であるか再定義しながらブラッシュアップしていきたい。 ごみの排出量について、コロナ禍が終わり、市民の消費行動が変化した影響が出ていると思う。現在、市は容器包装しかりサイクルしておらず、その他は可燃ごみとしているので、製品プラスチックをリサイクルすれば、可燃ゴミは減ることが見込まれる。しかしながら、製品プラスチックをリサイクルしようとすると、ボールペン1本捨てるのにも分解が必要となるため、捨て方の周知が必要となる。 電気の使用については、市民の皆様に「電源構成の内、再生可能エネルギーを選択して使ってください。」ということをしてPRし、お願いするということが大事である。

G 委員	年次報告の「市民 1 人 1 日当たりの家庭ごみ排出量」について、既に目標値を達成していることは評価できる。引き続き、ごみ排出量削減を意識しながら地域参画していきたい。 先日の豪雨では、足首まで浸水した。市内では、都市型豪雨が一番のリスクになってくと思う。今後、これまでの予測を超える降雨があるかも知れないので、小学校等の排水設備の整備を進めて欲しい。また、市内にも浸水深 2 メートル以上が想定されている場所があるので、市の浸水ハザードマップを市民の皆様に見て欲しい。
------	---

3 その他

事務局から、武蔵野市公共施設の環境配慮指針における対象施設・整備水準の追加等について報告した。

第 1 4 期の活動を振り返り、各出席委員から感想が述べられた。

発言者	発言要旨
委員長	最後に、今期委員を務められた感想や、今後期待することについて意見をいただきたい。
A 委員	毎回たくさんの資料を見て、それに対し意見を述べるという形式の会議であったが、会議というのは出席者で意見を言い合うものだと思っているので、今後はマイクを持たず、もう少しフランクに話し合えたら良いと思う。 また、委員構成の属性が偏っていると思う。女性が少ない。20代の学生や、30代の子育て世代なども入るといいと思った。若い方は平日に会議に出席するのは難しいと思うので、会議を土曜日又は日曜日に開催することを検討しても良いと思う。
事務局	委員構成については仰るとおりで、本委員会に限らず、ワークショップなど事業全般で同様の課題がある。女性や幅広い年齢層の方に参画していただけるよう、情報発信していく。
委員長	参加の機会はあるが使われていないのが実態だと思う。公募しても、応募するメンバーは固定されている。意識の高い市民は多いが、「任せておけばいい。」と思っている人も多いと感じた。
B 委員	今期初めて参加した。もっと活発な意見が出されて反映されていく場だと思っていたが、思っていたよりも「かっちり」していた。来季はもっと勉強して、意見を言えるようにしたいと思った。
C 委員	昨年度から年次報告を見ているが、ストイックに作られていると思う。他の自治体の年次報告では、ABCD評価などが行われているが、「何故その評価なのか。」という不毛な議論になる。しかしながら、市の年次報告は淡々と事実が綴られており感銘を受けた。幅広く環境保全に取り組まれていると感じ、個人的に勉強になった。
D 委員	20年ほど前、クリーンセンターの建設に当たり設置された市民会議があり、そこでいろいろ意見したことを思い出しながら活動していた。また応募したいと思っている。
E 委員	市が環境保全について、幅広く取り組んでいることが分かったが、市民に浸透・PR させていくことが課題だと感じた。「気候危機打開！むさしの市民エコアクション」は良い取り組みであるが、市民にはほとんど知られていないと思う。市民は意識が高いので、浸透すれば効果は大きいのではないか。市民に対し、如何に効果的にPRしていくかが課題だと思った。
F 委員	環境は、地球環境から生活環境、家庭環境と幅が広い。定義がないので、手探りでやっているというのが正直なところ。成果はまとめているが、市はPRすることが苦手である。市民の皆様の行動変容には、PR、周知が必要なので、今後はこれを強化していく。
G 委員	研究者目線で年次報告を見て、粛々とデータが蓄積されてくのが素晴らしいと思う。実際に市民に伝わっているのか、市民がどう考えているかという視点が重要だと思うので、一般市民としての感覚を持ちながら、今後参画していきたい。

委員長	会議の中に市民が入って意見を述べるという方式は、武蔵野市が先進的で「武蔵野市方式」と称され、自治体の中では有名な話となっているが、最近は形骸化してきたと感じている。今、武蔵野市は守りに入っていると思う。受け身ではなく攻めて欲しい。例えば、武蔵野市は横浜市に比べ、公共施設や商店街に花が少ないと思う。横浜市では、市民や法人から「横浜みどり税」を徴し、街中の緑の創出などに充てている。街中に花や緑を増やすことは環境改善に繋がると思う。
-----	--